

2020年度用 教科書内容解説資料

図画工作

文部科学省検定済教科書 小学校 図画工作用		101
		102
		301
		302
		501
		502
9 開隆堂	図工	開隆堂出版株式会社

教科書検討から見た
観点別・編集の特色



開隆堂

本冊子は、「教科書発行者行動規範」に則って、配布を許可されているものです。

1. 教育基本法（第2条）との関連

検討の観点	内容の特色	具体例
<p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと</p>	<p>第1号／教科書の全題材及び特設のページを通して教科の目標に迫ることで、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことができると考えています。また、知識及び技能の習得を主たる目標に掲げた題材に加えて、資料ページを充実させて各学年8ページ展開とし、各題材での学びに生かせるように構成していますので、幅広い生きた知識と教養を身につけることにつながります。</p>	<p>1・2  (18・19、38～41、50～57頁) 1・2  (18・19、36～39、50～57頁) 3・4  (18・19、30～33、50～57頁) 3・4  (18・19、36～39、50～57頁) 5・6  (18・19、30～33、50～57頁) 5・6  (18・19、30～33、50～57頁)</p>
<p>個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと</p>	<p>第2号／自分とは何か、自分らしさとは何かということを造形的に表そうと追求することは自己肯定感を高め、個人の価値尊重につながると考えて題材化しました。また、造形活動によって自分たちの生活を豊かにすることのすばらしさを伝えたいと考え、生活の中で使うものや遊ぶものを製作する題材を掲載しています。</p>	<p>1・2  (22・23、26・27、42・43頁) 1・2  (14・15、22・23、34・35頁) 3・4  (16・17、22・23頁) 3・4  (22・23、40・41頁) 5・6  (14・15、26・27、38・39頁) 5・6  (24・25、38・39、40・41頁)</p>
<p>正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと</p>	<p>第3号／友だちと協力して表現する活動では、互いの考えを主張したり調整したりすることが必要となることから形、色、言葉などを通して互いのよさを感じ合える題材づくりに努力しました。互いの心を通わせる活動を通して相手への思いやりの心をつくらせ、社会の形成に主体的に参画していくことにつながると考えています。</p>	<p>1・2  (6・7、47、48・49頁) 1・2  (6・7、48・49頁) 3・4  (6・7、38・39、48・49頁) 3・4  (6・7、34・35、48・49頁) 5・6  (6・7、21、44・45、46・47、48・49頁) 5・6  (6・7、44・45、46・47、48・49頁)</p>
<p>生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと</p>	<p>第4号／自然が豊かな場所で造形活動を行ったり、自然の事物をモチーフとした表現活動を行ったりすることを通して、自然のよさを感じ取れるような題材づくりに努力しました。また、さまざまな地域の自然や材料を知ること、環境に寄与する態度の育成につながると考えて資料として掲載しています。</p>	<p>1・2  (28・29頁) 1・2  (32頁) 3・4  (26・27頁) 3・4  (28・29頁) 5・6  ((28・29頁) 5・6  (16・17、28・29頁)</p>
<p>伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと</p>	<p>第5号／造形活動や造形作品を通して我が国の文化や郷土のよさ、外国の文化などを伝えるよう努力しました。また、伝統と文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことにつながると考えて、諸外国の児童の作品を全学年で取り上げて紹介するとともに、日本や世界の美術作品を掲載しています。</p>	<p>1・2  (38～41、44・45頁) 1・2  (33、36～39頁) 3・4  (16・17、30～33、48・49頁) 3・4  (12・13、36～39、48・49頁) 5・6  (8・9、30～33、48・49頁) 5・6  (24・25、30～33、48・49頁)</p>

2. 学習指導要領との関連

検討の観点	内容の特色	具体例
<p>教科の目標との関連を図る</p> <div data-bbox="93 473 411 691" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">学習のめあて</p> <p> 形や色、方法や材料を知って、くふうする力</p> <p> 試したり、見つけたりして、考えたり、思いついたりする力</p> <p> 心を開いてたのしく活動し、友だちとかわり、協力し合う力</p> </div>	<p>学習指導要領における図画工作科の「目標」である「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質や能力を育成する」ことを達成するために、以下の資質や能力に関わる三つの目標、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「知識及び技能」に関する目標 (2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する目標 (3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標 <p>を基盤に置いて編集しました。</p> <p>各題材では、三つの目標として掲げ、その中の一つを中心的な目標として強調して示しました。主な目標に対応したキャラクターが児童の学習を深める支援を行うようにしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能＝創造的な技能に関する事項 (形や色、方法や材料を知って、工夫する力) ・思考力、判断力、表現力等＝発想や構想に関する事項 (試したり、見つけたりして、考えたり、思いついたりする力) ・学びに向かう力、人間性等＝関心、意欲、態度に関する事項 (心を開いてたのしく活動し、友だちとかわり、協力し合う力) 	<p>全般</p>
<p>カリキュラム・マネジメントを推進する</p>	<p>児童に育成したい資質や能力（三つの目標）と表現の内容の二つの視点をもとにカリキュラム（題材構成）の編成を行いました。各学年の2～4ページには、カリキュラムを系統的、構造的に見開きページとして図示し、各題材の授業目標と内容の全体構成を俯瞰し、見通しをもって視覚的にとらえることができる「カリキュラム編成目次」を提示しました。</p>	<p>各学年（2～4頁）</p>
<p>授業課題・目標や表現内容の焦点化を図る</p>	<p>作品のカタログ的、網羅的な掲載は避け、授業の課題・目標や表現内容を整理し、焦点化して示すことで、授業方法や指導方法が紙面から読み取りやすい構成や表示に努めました。また、児童の自主的な活動を促すため、作品製作の過程や発想方法のヒント、材料選択の可能性など、活動の契機となるような内容表示を工夫しました。児童作品については、できる限り多様な作品を掲載し、それぞれの考え方を尊重することで、主体性や個性、創造性を培う意欲づけとなるようにしました。</p>	<p>全般</p>

3. 学習指導上の効果や編成

検討の観点	内容の特色	具体例
編集の意図は明確であるか	児童が快さやたのしさを十分経験し、心を開いて表現できるような基本的な活動を大切にしました。心を開いて表現することは、自らと対峙し、興味や関心、見方や考え方など、想像性や個性を培っていく原点です。	全般
学習の目標（めあて）と内容及び育てたい力との関連は明確であるか	図画工作科で大切にしたいことや育てたい力を「学習のめあて」として明示すると同時に、児童の自己評価を「ふりかえり」として設置し、学習の目標と内容及び育てたい力との関連を明確にしました。図画工作科の授業を通して育てたい力を大きく三つにくくり、それぞれマークで示しました。各題材には、その題材で一番大切にしたいことを目標として、マークとともに具体的な文章で示しました。	全般
基礎的・基本的事項の扱いは適切であるか	基礎・基本としての幅広い知識と技能を身につけるために、形や色などの造形要素、表現技法や材料・用具の知識などを整理し、児童が活用しやすい資料ページを系統的にまとめ、発達段階に応じた内容を「造形の引き出し」として各学年の巻末8ページに設定しました。また、各題材で表現のために必要な技法や知識は、確実に習得できるように、それぞれの題材ページに示しました。	全般 1・2㊤ (50～57頁) 1・2㊦ (50～57頁) 3・4㊤ (50～57頁) 3・4㊦ (50～57頁) 5・6㊤ (50～57頁) 5・6㊦ (50～57頁)
内容の配列や学年の順序性は適切で工夫されているか	「自分の考えや感じ方を大切にする表現の追求」をテーマに全学年とも年間指導計画にそった、いわゆる「カリキュラム順」の題材配列にしました。やさしいものから、より難しいものへと、難易度を考慮して順序性を整えました。	全般 各学年のもくじ (5頁)
内容の分量は適切であるか	低・中・高学年に応じて、題材の内容と分量を整備しました。学習指導要領に示されている年間授業時数をふまえ、題材の軽重のバランスを整えました。	全般
題材に魅力があり、多様な扱いができるか	各題材は表現活動内容の必然性や妥当性を考慮し、図画工作科としての資質や能力を育成する適切な題材内容の開発を行いました。具体的には、年間授業時数を考慮し、授業方法や時間数などを多様に扱える内容、体全体で材料にかかわる活動が行える内容、地域や学校の実態に合わせた選択が可能な内容、ICT機器やデジタルデータを活用して表現する内容等の充実を図りました。	1・2㊤ (26・27頁) 1・2㊦ (28・29頁) 3・4㊤ (36・37頁) 3・4㊦ (28・29頁) 5・6㊤ (40・41頁) 5・6㊦ (28・29頁)
題材の系統性は適切であるか	選りすぐった題材を網羅するとともに、各学年の発達段階に対応した系統性を、心情・技法・関心・意欲の視点で構築し、有効な積み重ねと転移が図れるようにしました。	全般
児童の主体的・対話的な学習への工夫がなされているか	学習指導要領における児童に育成したい資質や能力を学習の中心的な三つの目標として、児童にわかりやすく整理するとともに、それらを象徴する楽しいキャラクターとして示し、主体的・対話的で深い学びへ児童を導くようにしました。	全般
言語活動が充実するような工夫がなされているか	コミュニケーションや言語活動を重視した題材を多く設定しました。また、題材の最後には「ふりかえり」を設定し、友だちや先生と話しながら、コミュニケーション能力を高めていけるように配慮しています。	全般

<p>文章表現は適切であるか。表現の工夫はなされているか</p>	<p>題材名は、活動内容の事実を紋切り型に表示することから脱却し、児童の心に響き、しかも内容が豊かにイメージされるように工夫しました。各学年の発達段階に対応しつつ、新鮮な命名を心がけました。主文は、児童の言語感覚を大切に、児童の心に語りかけ、題材内容をイメージさせて意欲的に課題をつかみ取れるように練り上げました。また、個々の作品の解説、児童のつぶやきなどは、全国の実践レポートから児童の生の声を取材し、心情面から作品理解に役立つように配慮しました。作品製作や活動にあたっての材料や技法についての工夫を取り上げることで、教科書に掲載した意図を伝えることを重視しました。</p>	<p>全般</p>
<p>図版・写真等は学習の内容に関連して適切に用いられているか</p>	<p>視覚的に親しみを増し、イメージをふくらませ、より正確に習得できるように、写真やイラストを折り込みました。とりわけ造形遊びは、視覚的に展開するように考慮しました。製作の手順、材料・用具の使い方、技法の手立てなどは読み取りやすい視点から撮影し、鮮明で、かつ意図が明確なものを厳選しました。</p>	<p>全般</p>
<p>文字の書体や大きさは、児童の発達段階を考慮したものになっているか</p>	<p>題材名・主文・作品の解説・児童のつぶやきなどの文字は、読み取りやすい書体（ユニバーサルデザインフォント）を吟味して使用するとともに、文字の大きさは、児童の発達段階に即して、低・中・高学年のくくりの中でそろえました。</p>	<p>全般</p>
<p>現代的な話題や課題などを取り上げて、児童が関心をもって学習に取り組めるような工夫がなされているか</p>	<p>2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けての作品づくりを取り上げました。また、コンピュータによる造形表現の可能性を紹介しました。児童が図画工作の学習で培った力が身近な社会につながっていることを理解し、実感することは大切です。造形作品をつくるのが平和に向けての活動や自然災害に向けての支援活動につながることを示しました。</p>	<p>5・6  (44・45、46・47頁) 5・6  (44・45、57頁)</p>
<p>発展的に学習する内容の工夫がなされているか</p>	<p>造形遊びで表現したものを使って新たな活動に発展させたり、絵画や工作題材でつくった作品を使って発表会を開いたりするなど、製作した作品が新たな活動を促す契機となるように工夫しました。また、材料をもとにした造形遊びでは、地域や学校の実態に応じて、使う材料の選択ができるように配慮しました。</p>	<p>1・2  (12・13、34・35頁) 1・2  (24・25頁) 3・4  (46・47頁) 5・6  (28・29、40・41頁) 5・6  (26・27頁)</p>
<p>問題解決的な学習は、どのように扱われているか</p>	<p>児童が自ら課題を見つけ、試行錯誤を繰り返しながら、表現対象や主題、材料や方法などを自己選択、自己決定していく場や環境を設定、保障するなど、自主的で主体的な活動を促しています。</p>	<p>全般</p>
<p>QRコードやURLの記載によって、学習に効果的なコンテンツの提供がなされているか</p>	<p>各題材にはQRコードを掲載し、インターネットと連携することで、用具の安全な使い方や作り方などの動画、教科書に掲載した作品以外の参考作品例を見ることができるようになりました。また、第3学年～第6学年には英単語を掲載し、QRコードで発音を聴くこともできるようになりました。</p>	<p>全般</p>

4. 配慮事項

検討の観点	内容の特色	具体例
就学前教育や中学校との接続への配慮がなされているか	低学年では、身体性を伴う造形活動や、身近な自然や友達とのかかわりを大切にする題材を多く設定し、幼稚園・保育園での体験をもとに活動が展開できるように工夫しました。また、中学校「美術」との連携では、水墨画の実践や屏風絵の鑑賞、コンピュータやICT機器の使い方などの内容を設定しました。	1・2 上 (8、9、12・13、14・15、22・23、28・29、34・35頁) 1・2 下 (8、9、10・11、24・25頁) 5・6 上 (6・7頁) 5・6 下 (30・31、32・33、34・35、46・47、57頁)
他教科との連携についての配慮がなされているか	学習指導要領で、他教科との関連を一層進めることが示されていることをふまえ、低学年においては、生活科との関連を図るとともに、身体性を伴う造形活動や、身近な自然や友だちとのかかわりを大切にする題材を多く設定しました。また、「総合的な学習の時間」や他教科との関連を視野に入れて、各学年の終わりには総合的な扱いの題材を設定しました。また、「みんなのギャラリー」(全学年)や「つながる造形」(5・6学年)では、社会科など他教科との関連を図りつつ、各地の伝統文化や国際理解の一端を紹介しました。さらに、各学年の題材とは別に「ひらめきコーナー」を設け、気軽に表現することのたのしさに気づかせたり、総合的な活動、特別活動等のさまざまな機会に自由に活用したりできる内容としました。また、他教科との関連は、各題材の紙面下段に 教科名 として教科名を示し、教科横断的な学習への手立てとなるように配慮しました。	1・2 上 (18・19、47、48・49頁) 1・2 下 (18・19、46・47、48・49頁) 3・4 上 (18・19、46・47、48・49頁) 3・4 下 (18・19、46・47、48・49頁) 5・6 上 (18・19、40・41、44・45、48・49頁) 5・6 下 (18・19、42・43、44・45、48・49頁)
地域性への配慮がなされているか	学習指導要領の「各学年の『B鑑賞』の題材については、…美術館や博物館等と連携を図ったり、それらの施設や文化財などを積極的に活用したりするようにすること。」をふまえ、各地の美術館などでの取り組みを「みんなのギャラリー」(全学年)として扱いました。美術館だけでなく、地域に密着した行事や伝統工芸などと組み合わせた取り組みを紹介することにより、児童が自分たちの住む地域に目を向け、身近な地域の中から児童や学校の実態に応じて活動できるように配慮しました。	1・2 上 (48・49頁) 1・2 下 (48・49頁) 3・4 上 (48・49頁) 3・4 下 (48・49頁) 5・6 上 (48・49、56・57頁) 5・6 下 (44・45、48・49頁)
安全・防災教育への配慮がなされているか	安全や防災につながる後片づけについて、配慮すべき点を 目録 マークとともに、写真やイラストを用いて具体的に例示しました。材料や用具を安全に使用することはもとより、後片づけも防災に向けて大切な学習活動であることを示しました。また、各学年の巻末8ページに「造形の引き出し」を設定し、使う用具や材料の基本的な扱い方をイラストや写真で示すとともに、必要な箇所には 目録 マークをつけて、安全な使い方ができるように配慮しました。	1・2 上 (9、13、21、35、36、50～57頁) 1・2 下 (11、15、26、50～57頁) 3・4 上 (11、25、27、35、43、45、50～57頁) 3・4 下 (15、17、41、43、45、47、50～57頁) 5・6 上 (15、22、39、50～57頁) 5・6 下 (13、15、21、38、50～57頁)
環境・共生への配慮がなされているか	児童がさまざまな活動体験や材料体験を深めると同時に、自然を大切にし、環境の保全に寄与するような内容の設定を心がけました。また、自他を認め、協力して共に活動することの大切さを重視する内容の設定にも配慮しました。	1・2 下 (32頁) 3・4 上 (30・31頁) 3・4 下 (28・29頁) 5・6 上 (28・29頁) 5・6 下 (44・45、48・49頁)

<p>日本の伝統的な文化についての配慮がなされているか</p>	<p>各学年に「みんなのギャラリー」を設定し、日本各地の伝統と文化に触れ、そのよさを十分に味わうようにしました。また、地域の暮らしの中の造形作品を取り上げて鑑賞できるようにしました。</p>	<p>1・2上 (48・49頁) 1・2下 (48・49頁) 3・4上 (48・49頁) 3・4下 (48・49頁) 5・6上 (48・49頁) 5・6下 (48・49頁)</p>
<p>キャリア教育についての配慮がなされているか</p>	<p>図画工作の学習で学んだ力を生かして、学校環境をたのしくする取り組みを紹介するとともに、中学校生活や将来に向けて思いを馳せる取り組みなどを紹介しました。</p>	<p>5・6下 (46・47頁)</p>
<p>英語教育への配慮がなされているか</p>	<p>英語教育については、2020年度に第3学年からの必修化、第5学年からの教科化が完全実施されることをふまえ、第3学年～第6学年には、ページの下段に図画工作で使う言葉を英単語とともに示しました。また、QRコードで音声を聴くことができるようにしました。</p>	<p>全般</p>
<p>プログラミング教育への配慮がなされているか</p>	<p>2020年度からのプログラミング教育の必修化に向けて、コンピュータを使用し、活用を図ることが求められています。図画工作科として、コンピュータでできることを例示しました。</p>	<p>5・6上 (46・47頁) 5・6下 (57頁)</p>
<p>情報モラル教育への配慮がなされているか</p>	<p>学校現場に広がりを見せているコンピュータやデジタル機器を使った表現の可能性を探るとともに、インターネットを利用するときのポイントとマナーを示しました。</p>	<p>5・6下 (57頁)</p>
<p>カラーユニバーサルデザインに関する配慮がなされているか</p>	<p>特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザインの観点から、専門家の校閲を得て、色覚に多様性のあるすべての児童に対して、教科書の内容がきちんと伝わるように、紙面全体に識別しやすい配色や形状、イラストの配色や写真の配置などを工夫し、支障なく学習できるように編集しました。また、本文には誰にでも読みやすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。</p>	<p>全般</p>
<p>特別支援の観点に配慮がなされているか</p>	<p>上記と同様、教科書の内容がきちんと伝わるように、紙面全体に識別しやすい配色や形状、イラストの配色や写真の配置などを工夫し、支障なく学習できるように編集しました。具体的には、文章の表記を意味のまとまりごとに改行位置を工夫することによって、障害のある児童にとっても文章の意味がとらえやすくしました。他にも、写真や図の重なりを減らすとともに、重なる場合は間に線を入れて図版を区別しやすいようにするなどの工夫を行いました。</p> <p>また、教科書バリアフリー法に基づき、弱視の児童のための拡大教科書を発行します。新たに発行する児童用デジタル教科書においても、白黒反転や音声読み上げなどの特別支援機能を搭載いたします。</p>	<p>全般</p>

5. 造本や体裁

検討の観点	内容の特色	具体例
印刷は鮮明で見やすいものであるか	用紙については、見やすさ、印刷適性の観点から、数多くの用紙を使って試験し、その中から最適の用紙を厳選しました。特に印刷インキのギラツキを抑え、しっとりとした目に優しい用紙を採用し、児童の目を保護するなどの配慮をしました。印刷は、作品のもつ微妙なニュアンスや質感などを忠実に再現するために、最新の印刷技術を駆使し、かつ入念な色校正に努めました。	全般
製本は堅牢で使いやすいものであるか	開いたときの使いやすさと堅牢さを考慮して、ミシン綴じ、見返し付きとし、表紙はビニル加工することで、長期間の使用に耐え得る製本としました。	全般
造本上に工夫がなされているか	裏表紙に、児童の学校名・学年・組・氏名などを記入できる部分を設けるとともに、グラビア印刷することで、記入にあたって、にじみなどができないように工夫しました。	各学年の裏表紙
環境やアレルギーに配慮した造本がなされているか	印刷インキは、人体への影響が少ない植物性インキを使用していますので、化学物質に敏感な児童でも安心して使用することができます。写真や図版の鮮明度を保ちつつ、資源保護のために表紙、本文ともすべて環境に配慮した用紙を使用しています。	全般
表紙は魅力的なものであるか	表紙は、児童の息づかいが聞こえるような児童絵画作品を紙面いっぱいに掲載しました。また、児童の心に響く書名をつけることで、図画工作のたのしさを、すばらしさを強く訴えました。書名を形づくっている材料はいずれも本文題材で取り上げた材料を使用しました。	各学年の表紙
レイアウトは見やすく、学習しやすい工夫がなされているか	児童にとって最も身近な美術書としての位置づけをし、全ページとも各題材・内容をより明確にし、しかも感動的にたのしさが読み取れるように工夫しました。一人一人の児童が表現活動に見通しをもち、主体的・自発的・発見的に造形活動が進められるように、文章・図解・活動写真・作品例などを配置しました。レイアウトはすべての児童が見やすく、活動したいという意欲がわいてくるように工夫しました。作品や感動の情景場面などはできるだけ大きく掲載し、美しさやたのしさが伝わるようにしました。	全般



開隆堂出版株式会社

本社 / 〒113-8608 東京都文京区向丘 1-13-1
☎ 03-5684-6111 (代表)

北海道支社 / 〒060-0061 札幌市中央区南一条西 6-11 札幌北辰ビル 8F ☎ 011-231-0403
東北支社 / 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡 4-3-10 仙台TBビル 4F ☎ 022-742-1213
名古屋支社 / 〒464-0802 名古屋市千種区星が丘元町 14-4 星ヶ丘プラザビル 6F ☎ 052-789-1741
大阪支社 / 〒550-0013 大阪市西区新町 2-10-16 ☎ 06-6531-5782
九州支社 / 〒810-0075 福岡市中央区港 2-1-5 FYCビル 3F ☎ 092-733-0174